

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1021号
2007年1月28日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

◇聖信受領

12月17日 主教座聖堂まで
▽佐藤みゆき▽藤田正雄▽大久保雄一▽松岡美範▽小野優華▽大江利道▽木内あゆみ▽広瀬真美(聖アンデレ)▽足立真理子(自白)
▽ギブソン・ジョン・デービット▽ギブソン・悦子(聖バルナバ)▽村尾薫美(聖テモテ)▽櫻井彩(聖救主)▽渡辺岳人(神愛)▽松阪美由紀▽松本芳彦▽八巻忠治▽松田恵理子▽新谷芳恵(聖ルカ)▽小島博之(立教諸聖徒)
12月24日 聖三一教会で
▽児玉初枝▽後藤啓子▽村上愛▽村上真希子▽村上信夫▽櫻井麻里▽松林麻衣(聖三一)
12月25日 三光教会で
▽伊藤和彦▽篠原美夏▽藤田亮子▽宮武俊江▽山下耕(三光)

◆とこしえの平安

12月14日	浜田つるよ(105)	1月1日	古田 雪枝(93)
12月22日	富田キクイ(98)	1月3日	副島 貞子(100)
12月23日	金子 賤家(91)	1月11日	高橋 誠哉(78)
12月30日	鈴木 聖ガブリエル	1月12日	山田 昌司(66)
	神田キリスト	1月17日	田島 宣亞(64)
	聖ガブリエル		三光 池袋
	神田キリスト		聖マルコ

今週・来週の予定 1月28日~2月10日

28(日) 顕現後第4主日
被献日前の光の礼拝 (主教座)
山手G教会協 (聖マーガレット)
城南G教会協(聖マリア)

2月
1(木) 下町G牧師協 (聖ルカ)
2(金) 被献日礼拝 (自白・主教座)

4(日) 顕現後第5主日
6(火) エルサレム教区協働委
:聖地訪問団準備会
企画室・財政委合同会
9(金) 信仰と生活委員会一泊
研修(~10日・神田)

【訂正】 前号第4面「渋谷給食活動」記事中、活動開始年が脱落していました。「04年12月」とお詫びして訂正します。[HP等には訂正して掲載・配信済]

(この用紙は再生紙を使っています)

毎主日、旧約聖書は日課として読まれるが、説教にはとり上げられることはない。そのためか旧約聖書は身近な存在とは言いがたい。これも一つの理由として、8年前、定年退職と同時に立教大学のキリスト教学科3年

《恵みに生かされて》

旧約聖書の学び

古谷 儉次

大学2年間の旧約聖書の講義は大変興味深いものだったが、一度も神様に出会うことがなく、今一つもの足りぬ思いをした。「聖書の信仰体験を普遍的な人間の体験として了解する試みは、必然的な帰結として教会共同体そのものを不要として人間共同体に解消してしまうのではないだろうか」(聖書解釈をめぐる最近の動向から)。

2年前、広田勝一司祭(元立教大学)

チャプレン)が主教になられ、聖公会神学院で旧約聖書を教えられると聞いて、聴講生となった。復習と思い1年生の旧約聖書入門から受講したが、今年度の釈義・神学は上智大学の雨宮慧先生に変わった。先生の授業は常に神の思いは、計画は何か、と問いかけられ、毎回のようにリアクションペーパーを書かされる、充実したものだ。折にふれ新約聖書にも触れられ、旧約聖書を身近に感じられるようになった。一緒に学ぶ若い3人の神学生の熱心に一生懸命勉強している姿に接し、他教区ではあるがこのような若者が近い将来聖職者に育っていくのかと、明るい希望をもってこの2年間学ぶことが出来たことを感謝している。

(真光教会信徒)

▽1月正義と平和協議会(13日・目白聖公会)で新運営委員が選出され、2期4年を勤め任期満了となった議長香山人司祭の後任に、李民洙司祭が着任した。他の運営委員は継続。

▽聖パウロ教会主催の2回シリーズ「パイプオルガン・コンサート」が同教会で行なわれる。①2月2日(金)、演奏Ⅱベルナル・ヴィンセミアス、②3月16日(金)、演奏Ⅱジャン・クロード・ツェンダー。時間はいずれも19時開演、全自由席。2回共通券5千円、1回券3千円(高校生以下千5百円)。照会&予約電話Ⅱ03(3710)6031。

▽聖路加国際病院礼拝堂の

恒例「オルガンコンサート・夕の祈り」が2月7日(水)18時半、19時から行われる。演奏者は武田ゆり。入場無料(会場献金)。

▽千葉・佐倉市立美術館で開催中の「守谷延雄展」で、渋谷聖ミカエル教会で使用している同氏デザイン長椅子2脚が出品展示されている。大正時代を駆け抜けた家具・室内装飾デザイナーの没後80年記念展。3月25日まで。会場電話Ⅱ043(485)7851。

▽07年度教役者会幹事会で新幹事長にケビン・シーバー執事が互選された。他の幹事は、石坂みる子司祭、佐久間恵子執事、須賀義和執事、下条知加子聖職候補生。

《今、この教会では…》

東京聖マルチン教会

秋の終りの頃、突然、地域の女の子が日曜学校に、初めは二人、そしてその後は四人で来るようになりました。本田美奈子のアメイジンググレースの歌を教会で歌わせて下さい…。やがて主日の礼拝後、オーガニストの伴奏で一人で祭壇の前で綺麗な声で歌い、聞く者は胸が熱くなって皆で大拍手を送りました。さらに何と、クリスマス前の聖劇では、マリアとヨセフ、羊飼いの役を見事に演じて、大きな感動が与えられました。幼な子主イエス様の愛が子どもたちの心に行きわたりますように祈り、これからも見守っていきたいと思います。(麓 節子)

かにソウル教区を訪問し学びと交流プログラム「オウルリムの旅」を行いました。東京教区とソウル教区とは長年の協働関係がありながらかつてのプロジェクト制廃止以降、教区としての公のプログラムは行われていませんでした。今回はソウル教区の協力を得て、ホームレスや外国人労働者に対する活動の現場を訪問したり、社会宣教に関するソウル教区の姿勢をうかがったほか、一緒に料理を作るなど多様な学びと交わりのひと時となりました。参加した方々は帰国後、さらに「オウルリムの会」として活動を継続し、その成果を深めようと計画を始めています。

また、「五本木九条の会」が新

たに団体会員として加わったことから、憲法問題に関する取り組みが一層具体化することが期待されています。

正平協本来の姿である団体会員や個人会員の協議体としての性格は、まだ十分発揮されているとはいえません。しかし、教育基本法改訂に続いて平和憲法を作り直して国軍を創設する動きが急速化し、核の脅威が再び現実味を帯びてくるかと思えば再び外国人管理が強化されている昨今ですが、身の回りの小さな課題から世界のさまざまな地域の課題まで、私たちの福音信仰と無関係なものはありません。これからも団体会員の働きがますます活発になり、その成果が教区内に広く分かち合わ

れ、互いに支えあうことができるように、そして一人でも多くの方が個人会員として加わってくださるよう願っています。新たに選出された李民洙議長を中心に、これからも、正義と平和の実現のために働く多くの方々から信頼されるプログラムをさらに展開できるように願っています。

前議長 司祭 香山洋人

▽礼拝音楽委員会主催で「オルターギルド宿泊研修会」心でふれ手で聴く〜静まりのうちに」が3月2日(金)19時〜3日(土)16時30分、ナザレ修道院で。教会宛に案内書配付。申込み締めは2月18日。照会先電話03(3492)2982。

【学びと働きから】 29

教区宣教2委員会
06年度の活動を振り返って

03年の機構改革により宣教委員会から移行して誕生した「信仰と生活委員会」「正義と平和協議会」は、丸4年の活動を終えた。ここでは、昨06年度の働きを振り返り今後への期待を含めて、各委員長個人の思いを綴っていただいた。

《信仰と生活委員会》

大所帯の委員会です。各教会グループ協議会から推薦された6人とプラス6人、陪席者3人の計15人の構成です。ほぼ月1回の会合ですが、各議案についてそれぞれの方々が意見を述べ

ますので、終了予定時間を超過してしまふことが度々あります。本委員会の職務は、信仰は信仰、生活は生活として取り組むのではなく、信仰が一人一人の生活に生きた事柄として実現していくことを目指すものであり、理解しています。ですから、まず第一の目的である「宣教・奉仕・交わり」という使命を実行するための教育的プログラムに、これまでの振り返りを踏まえて、取り組んでいきます。07年度もこれまでの3講座のほかに1講座新設を予定しています。そのほかにも、カウンセリング講座、正義と平和協議会と共催した憲法を学ぶ講座なども予定しています。

各教会グループ協議会、SS

スタッフ連絡会、一粒の麦の会（たすけあいセンター）、その他の自主活動を、また青年活動を、支援していきます。また、正義と平和協議会の「オウルリムの旅」とは少し違った「信仰と生活」の視点での学びの旅も視野に入れていきます。

さらに、本委員会の活動は多岐にわたっておりますので、その中心であって重要な信仰と生活が一つであることを各委員一人一人が確認するための宿泊研修会を行なうことも企画しています。本委員会の働きに参加くださり、またご利用ください。

委員長 司祭 井口 諭

《正義と平和協議会》

06年は、これまでの活動のほ

思い新たに叙任4司祭

▽：1月20日(土)、主教座聖堂で行なわれた聖職按手式で4人の新司祭が誕生した。当日の司式・説教には植田仁太郎教区主教が当り、教区内外からの聖職・信徒多数のほか、叙任者家族、また東京教区聖歌隊、聖ルカ礼拝堂・聖パウロ教会各聖歌隊も奉唱に加わって、4百人近い人たちが会して臨証、叙任者を祝福した。以下に、司祭職に叙任された4師の喜びと新たな決意の一端となる「ひとこと」をお届けする(按手順)。

教区を越えた働きを

司祭 シモン・ペテロ 上田 憲明

米国聖公会の聖職であるにも関わらず、東京教区はじめ日本聖公会の多くの皆様が共に喜び、祝福して下さった事を深く感謝しています。按手式の説教で、植田主教は、「ハワイ教区でもなく、ソウル教区でもなく、東京教区でもなく、しかも教会の外にいる人々とも繋がる司祭に

なるように」という主旨の話。思えば、82年に大阪教区から神学院に入学した時に、木川田主教に「世界で働く聖職を目指すように」と言われたことを思い出します。

後に妻となる亜樹子との出会いで、私は大阪教区に留まらず、聖公会神学院卒業後、横浜教区へ。87年7月に執事按手。妻の留学に伴い91年にボストン

に、94年からはハワイに移り住み、96年にハワイ教区に移籍。その後、臨床牧会教育を受ける中で、インターンチャプレン、レジデントチャプレンの経験を経て、01年にはクアアキニ病院チャプレンとなりました。03年に、妻の立教赴任に伴い埼玉県に移り、ハワイ教区籍のまま、故井原泰男司祭を補佐し、聖路加勤務。チャプレンとして働く中で、聖ルカ礼拝堂及び大畑司祭はじめ様々な多くの方々の支えと祈り、励ましがあって司祭になつていくことができました。

自分の無力さを感じる事が多いのですが「ただ祈るしかない」ということを大事にしていきたいと思えます。

(聖路加国際病院礼拝堂勤務)

神様の恵みをいただいて

司祭 ハンナ 石坂みず子

司祭按手に与る恵みを賜りました。
これは私自身の業の結実ではなく、神さまの恵みであることを慎んで受け留め、感謝しております。

様々な奉仕の中でも、聖餐式の司式の働きは、司祭職にある者の真の喜びです。それをこれから丁寧を経験していくことを通して、深められますようにと、願ひ祈ります。

ここまでの道はおよそ真つ直ぐとは言い難く、遠くて曲がりくねったもの。けれど一方では、必要なふさわしい行程であったとも思われます。どちらにせよ、皆様の、それも沢山の

皆様のお支えとお助けなしには

とても歩いては来られませんでした。若い日、入信へと招いてくださった司祭ならびに教父母、多くの手ほどきをしてくれた神学院の同窓生、現場で指導してくださった諸先生、教会の皆様への優しい心配り、家族からの叱咤、更に、記述しきれない諸先輩からの暖かで密やかなご助力をも含めて、ここに深くお礼を申し上げます。

神は清い方、聖なる方であることを、決して忘れることのないよう、教会の皆様と分かち合いつつ確認しつつ、神さまと人々のための生涯を歩んでいくことが出来ますように。どうぞこれからもお支えください。

(渋谷聖ミカエル教会副牧師)

私の信仰の旅路と感謝

司祭 ビード 李^{みんす} 民洙

私は、幼児洗礼は監理教会、中学・高校時代は福音的な長老教会、大学生時代は社会問題に関心を持つ進歩的な別の長老教会、日本では在日大韓基督教会、イギリスではクエイカーと改革連合教会を経験した。しかし、最終的には聖公会に落ち着いたのである。このように、私の信仰の遍歴は福音主義から急進主義まで多岐にわたる。私がこの自分の信仰の旅路から学んだのは、エキュメニカル神学である。

イギリスから帰国した私は韓国で最も小さい教会の一つで世界的なネットワークを持つ大韓聖公会を選択した。それは、この

小さい教会がエキュメニカルな教会として映ったからである。

大韓聖公会の神学大学院で1年教育を受け、日本に送られてから最早4年が過ぎた。この4年の間、私の教籍はソウル教区から東京教区に移され、今度は執事から司祭に按手される。これらすべて私の信仰の旅路は、神様の導きと、植田主教をはじめ東京教区の関係者、聖パウロ教会の信徒および小笠原先生、そしてソウル教区の皆様の祈りと励ましによるものである。主に感謝。

(聖パウロ教会副牧師)

按手の恵みを受けて

司祭 グレース 神崎和子

1月20日、司祭按手を受け

ました。まだ幻を見ているようです。しかし、多くの方々の祈りとお支えによって、一歩また一歩と歩んで来ることができました。

時には、崩れそうになったり、自分のいたらなさに、心痛むこともありました。しかし主がこの土の器である私を用いてくださる。そして必要なことは、必ず備えてくださる。そのことを信じて、未知の世界へまた一歩踏み出してゆきます。

思い返してみますと、私は教会の中で、それぞれの人が神様から頂いた賜物を生かし合えることを望んでいました。そしてその賜物をお互いが大事にしあえる関係、パートナーシップを求めていました。なぜならそれ

が教会を豊かにしてゆくことだと信じているからです。賜物が異なる場合もあります、異なることを、排除するのではなく、受け入れ、認め合い、そして共に歩んでいくことこそが、これからの教会に求められることのように思います。私は、これらのことを、これからも大切にしてゆきたいと思っています。

また私たちは神の民であり、この世を旅する旅人でもありません。安定の中に安住することなく、神の語りかけに耳を澄まし、その呼びかけに、応えられようように心を備えてゆきたいと思えます。

(池袋聖公会副牧師)